

科目名 (英)	人体の構造と機能Ⅱ Structure and Function of Human BodyⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	脇 雅子
		授業形態	講義		無		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月曜 3限
講師紹介	医学博士号を持ち、長年医学部で研究と教育に携わる。滋慶学園ならびに医療系専門学校で基礎医学全般を教授する						
目的	人体の構造と機能Ⅰで身に着けた基礎知識をベースとし、視能訓練士業務における疾患への理解や検査技術の理解を深める。						
科目概要	細胞、組織を基礎として人体の構造と機能を理解する。						
到達目標	視能訓練士として必要な医学的・科学的知識を習得し、臨床で生かせるようにする						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他(    )						
教科書	系統看護学講座 解剖生理学 医学書院			事前事後 学習と その内容	授業後毎回、必ず復習し、小テストの間違ひも確認する		
参考図書	ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版						
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	消化器系	講義	消化器の構造、機能を復習、確認する
2	心臓	講義	心臓の構造、機能を復習、確認する
3	呼吸器系	講義	呼吸器の構造、機能を復習、確認する
4	腎臓	講義	腎臓の構造、機能を復習、確認する
5	内分泌系	講義	内分泌系の構造と機能を復習、確認する
6	神経系	講義	神経系の構造、機能を復習、確認する
7	免疫・生殖器	講義	免疫系、生殖器の構造、機能を復習、確認する
8	定期試験	講義	定期試験。国家試験に向け、確実な知識の理解の程度を確認する

科目名 (英)	視覚生理学Ⅱ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	越田 愛生
	Optical Physiology Ⅱ	授業形態	講義		有		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月曜日/1.2時限目
講師紹介	2016年に視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて豊富な実務経験を経て、2022年より日本医歯薬専門学校の専任講師として勤務。						
目的	視覚生理学を総復習し、一步深い知識を身につける。						
科目概要	視力、視野、色覚、光覚、電気生理の知識を身につける。						
到達目標	国家試験に出題の多い分野である。国家試験合格に向けて学びを深める。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他(    )						
教科書	視能学		事前事後 学習と その内容		授業後に小テストを実施し、理解度の確認を行う。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	視力 中心フリッカー	講義	形態覚の4つの尺度、視力検査の条件・種類を理解する。 中心フリッカー検査について理解する。
2	光覚	講義	光の明るさの単位、可視光線、錐体・杆体、暗順応曲線、比視感度曲線、コントラスト感度を理解する。
3	視野	講義	視野検査の種類を理解する。 視野異常の種類を理解する。
4	色覚	講義	色の3属性、混色法、先天色覚異常を理解する。 X染色体劣性遺伝を理解する。 色覚検査の種類、方法を理解する。
5	電気生理	講義	ERG、VEPを理解する。
6	電気生理	講義	EOG、ENG、EMGを理解する。
7	まとめ	講義	これまでの復習、テスト対策
8	定期試験	講義	

科目名 (英)	視器の解剖生理学Ⅱ Anatomical Physiology of Visual organs	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	柘植 貴子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	木曜日 2限
講師紹介	保有資格:視能訓練士、中学・高等学校教諭第一種免許 略歴:2004年より眼科クリニックに視能訓練士として豊富な実務経験を有する。2016年より視能訓練士専任教員。						
目的	日常生活における情報の8割は視覚によってもたらされていると言われている。視能訓練士を目指す学生にもっとも理解していただきたいのは「見えるという仕組みの精巧さ」である。「見える」ということが決して単一なものではなく、複雑で大変素晴らしい仕組みによって成り立っていることを理解し、医療職者として活躍していただきたいと願っている。						
科目概要	眼疾患によって視器能を喪失することは重大なクオリティ・オブ・ライフの低下を招く。眼疾患を患った患者様のニーズに的確に応えるためには正しい知識が必要である。そのために本授業では業務に直結する内容や演習を取り入れていく予定である。						
到達目標	視器および付属器の名称、それぞれの役割、生理機構を学ぶ。 国家試験に向けて総復習をする。学んだことを応用し問題を解くことができる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他( )						
教科書	視能学第3版			事前事後 学習と その内容	授業後に小テストを行い、理解度の確認をする。		
参考図書	現代の眼科学 標準眼科学						
特記事項							

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	角膜・強膜	講義	国家試験に向けて総復習をする。学んだことを応用し問題を解くことができる。
2	網膜	講義	国家試験に向けて総復習をする。学んだことを応用し問題を解くことができる。
3	ぶどう膜・硝子体・水晶体・房水	講義	国家試験に向けて総復習をする。学んだことを応用し問題を解くことができる。
4	眼瞼・結膜・涙器	講義	国家試験に向けて総復習をする。学んだことを応用し問題を解くことができる。
5	外眼筋・眼窩	講義	国家試験に向けて総復習をする。学んだことを応用し問題を解くことができる。
6	眼球の血管系 視神経・視路	講義	国家試験に向けて総復習をする。学んだことを応用し問題を解くことができる。
7	眼の自律神経 視覚器の発生	講義	国家試験に向けて総復習をする。学んだことを応用し問題を解くことができる。
8	定期試験	講義	

科目名 (英)	視能矯正学Ⅲ OrthopticsⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	芝田 理恵
		授業形態	講義		有		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	月曜日/1限2限
講師紹介	保有資格: 視能訓練士 大学にて視能訓練士の資格を取得。 病院、眼科医院にて豊富な実務経験を積み、専任講師として専門学校において教務を行い現在に至る。						
目的	視能学の総まとめとし、基礎から各論までより知識を深める。						
科目概要	1年次に学んだ視能矯正学Ⅰ・Ⅱの知識を発展させ、斜視弱視の種類を理解し、それぞれの視能矯正方法を身につける。						
到達目標	両眼視機能、斜視・弱視についての知識の習得 それに関わる検査を理解する						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他( )						
教科書	視能学 視能矯正学 視能学エキスパート視能訓練学			事前事後 学習と その内容	授業後に小テストを実施し理解度の確認を行う。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	視能矯正学 基礎1	講義	眼位・眼球運動・両眼視機能についての基礎
2	視能矯正学 基礎2	講義	輻湊、開散、屈折、調節、AC/A比
3	斜視	講義	基礎知識、検査、訓練
4	弱視	講義	基礎知識、検査、訓練、
5	視能矯正の枠組み 身体表現性障害	講義	視能矯正の枠組み 心因性視覚障害について
6	眼振 手術	講義	眼振・斜視手術
7	中間テストにむけ総復習	講義	これまでの復習 テスト対策
8	中間テスト	講義	
9	視能矯正学各論	講義	国家試験の出題問題を例題として、視能矯正学の理解を深める。
10	視能矯正学各論	講義	国家試験の出題問題を例題として、視能矯正学の理解を深める。
11	視能矯正学各論	講義	国家試験の出題問題を例題として、視能矯正学の理解を深める。
12	視能矯正学各論	講義	国家試験の出題問題を例題として、視能矯正学の理解を深める。
13	視能矯正学各論	講義	国家試験の出題問題を例題として、視能矯正学の理解を深める。
14	視能矯正学各論	講義	国家試験の出題問題を例題として、視能矯正学の理解を深める。
15	定期試験	講義	

科目名 (英)	生理光学Ⅱ Physiologic OpticsⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	今井 哲也
		授業形態	講義		有		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	木曜日/1・2限
講師紹介	保有資格:視能訓練士(2009) 大学を卒業後に病院にて豊富な実務経験を経て専任講師として専門学校の教務を行い現在に至る						
目的	臨床現場に向けて基礎知識をより実践的な知識へと向上させる						
科目概要	1年次「生理光学Ⅰ」の実務使用例						
到達目標	各種計算を現場にて使用する場合の状況設定を学び、患者さんの希望実現に必要な数値を導き出すことができる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他( )						
教科書	屈折異常とその矯正・視能学・		事前事後 学習と その内容		自己学習としてダブルチェックシステムでの動画視聴を行うこと。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	屈折異常と矯正の定義	講義	屈折異常の原因を確認し、「矯正」とはどういうことか説明が行える。 キーワード:「焦点位置」「第1焦点」「第2焦点」
2	スタームのコノイド・パワークロス	講義	レンズ式・パワークロス・スタームのコノイドを連動して考えることができる。 キーワード:「式変換(+変換)」
3	調節力の計算	講義	様々な条件下での調節力の計算が行える キーワード:「遠点」「近点」「調節力」を動かす
4	明視域の計算	講義	様々な条件下での明視域の計算が行える キーワード:「眼鏡装用」「二重焦点眼鏡」「累進屈折眼鏡」
5	プリズム	講義	眼鏡によって生じるプリズム効果の計算を行い、眼に与える影響を学ぶ。 キーワード:「プレントイスの公式」「プリズム効果」
6	物体と像	講義	レンズを通して物体を見るとき像について学び、網膜像の大きさを求めることができる。 キーワード:「7:17」「倒立実像」「正立虚像」
7	作問	演習	各グループで2つテーマを設定し問題を作成する。 集約し解答解説を行う。
8	定期試験	講義	

科目名 (英)	眼科薬理学Ⅱ Ophthalmic PharmacologyⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	渡邊 隆
		授業形態	講義		有		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月曜日 3.4時限
講師紹介	薬剤師として調剤薬局や老人施設などの現場で最新の情報を常に得られる環境に従事し、豊富な実務経験を有する。薬系の大学や専門学校で講師を務める。実際の点眼薬の実物を使ってより一層リアルに感じ、教科書の内容だけでなく最新の情報を授業に生かす。						
目的	国家試験では3～4問しか出題されない科目ですが、2年で学んだ内容をもとに国家試験への傾向と対策を行う。						
科目概要	眼科の現場で使用される点眼薬の役割とその意義、また副作用について理解する。						
到達目標	国家試験に出題される知識を身につける。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他( )						
教科書	点眼薬 クリニカルブック			事前事後 学習と その内容	授業後に課題を配信する。		
参考図書							
特記事項							

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	点眼薬の基礎 その1	講義	点眼薬はどのようなものでどのように作られているか、また点眼容器はどのように作られそれがどのような意味なのかを説明できる。
2	点眼薬の基礎 その2	講義	点眼薬の正しい使い方、保管方法、使用期限等を説明できる。
3	緑内障治療薬 その1	講義	緑内障の発生原因や病態を説明できる。
4	緑内障治療薬 その2	講義	主な緑内障治療法の薬品名と作用機序が説明できる。
5	白内障治療薬、散瞳薬	講義	主な白内障治療薬、散瞳薬の薬品名と作用機序が説明できる。
6	炎症治療薬	講義	主な炎症治療薬の薬品名と作用機序が説明できる。
7	国家試験に向けて	講義	いままで学習してきた内容と国家試験に出題される関係について
8	期末テスト		

科目名 (英)	視能検査学Ⅱ Orthoptic ExaminationsⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	越田 愛生
		授業形態	講義		有	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	曜日/時間	水曜日/1限目
		単位	1				
講師紹介	2016年に視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて豊富な実務経験を経て、2022年より日本医歯薬専門学校専任講師として勤務。						
目的	眼科における一般検査を学ぶ。						
科目概要	正しい知識と技術を身につけることによって精度の高い検査結果を出すことができる。						
到達目標	知識と技術を結びつけることによって知識の定着を目指す。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他( )						
教科書	視能学			事前事後 学習と その内容	授業後に小テストを実施し理解度の確認を行う。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	外眼部検査・涙液検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 検査方法を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
2	細隙灯顕微鏡検査・角膜内皮検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 検査方法を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
3	隅角検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 検査方法を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
4	眼圧検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 検査方法を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
5	眼底検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 検査方法を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
6	眼軸長検査、CT、MRI	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 検査方法を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
7	まとめ	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 検査方法を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
8	定期試験	講義	

科目名 (英)	生理光学実習Ⅳ Practical Training Physiologic OpticsⅣ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	正信 りさ
		授業形態	実習		有		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	水曜日・3.4限
講師紹介	<p>▶【正信 りさ】視能訓練士 眼科での勤務経験を経て、視能訓練士資格取得、総合病院やクリニックにて豊富な実務経験を有する。</p> <p>▶【江頭 かをり】視能訓練士 大学にて視能訓練士国家資格を取得。大学病院、総合病院にて豊富な実務経験を有する。</p>						
目的	必要に応じた検査の選択ができる。 知識に基づいた検査と記載ができる。						
科目概要	これまでの実習で学んだことを総合的に考え、検査・説明・対応を一連の流れで行う技術を身につける						
到達目標	臨地実習にむけ、必要に応じた検査を理解し、スムーズな検査ができるようにする。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 ■実技試験 □その他( )						
教科書	検査ガイド・視能学・エキスパート検査学			事前事後 学習と その内容	授業内容に応じたレポートを作成し、手技を定着させます。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	小児等、様々な対応	実習	車椅子の扱い、点眼方法、流行性が疑われる疾患、小児など、様々な患者に対応する方法を学ぶ
3・4	レフ・NCT・レンズメータ	実習	レフ・NCT・レンズメータの操作方法の復習、練習
5・6	合同検査	実習	1年生に対応や声掛けを意識した検査を行う
7・8	小テスト	実習	レンズメータの実技試験を行う
9・10	クーパージョン演習	実習	コンタクトレンズの取り扱いや度数決定など実践的なことを学ぶ
11・12	外部実技試験にむけて復習	実習	これまでやってきたことを復習・練習し外部実技試験に備える
13・14	外部実技試験	実習	
15	外部実技試験	実習	

科目名 (英)	神経眼科学Ⅱ neuroophthalmologyⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	高橋 理
		授業形態	講義				
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	金曜日 1時限

**講師紹介**  
 保有資格： 歯科医師，歯学博士  
 略 歴： 神経解剖学を専門研究分野として学位論文テーマは三叉神経系，「マーティン神経解剖学，西村書店」の「前庭系と動眼系」章を2007，2015年に翻訳，雑誌「神経眼科」24(2)pp142-147(2007)に総説を依頼執筆，日本解剖学会と日本神経科学学会にて学会活動を今日まで継続した。

**目的**  
 視能訓練士という専門職として患者の要求に適切に対応する神経眼科学の知識，技能，態度を修得し，他の医療スタッフと円滑なコミュニケーションが可能な範囲にまで医学的な背景を学ぶ，さらに全身疾患を背景とする眼疾患についても理解を深める。

**科目概要**  
 眼科領域に必要な神経学および神経眼科学について体系的に学習する。

**到達目標**  
 1. 神経眼科疾患に関連する解剖学，生理学，病理学など基礎科目との関連の理解  
 2. 神経眼科疾患の眼症状，全身所見，原因疾患，および治療法の概略を修得

**評価方法**  
 定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)，平素の学習状況，出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は，受験資格を喪失し，E評価とするが，試験当日の出席は認められる。  
 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他( )

<b>教科書</b>	神経眼科診療のてびき	<b>事前事後 学習と その内容</b>	事後学習として，授業の最後に実施する小テストを復習し，授業で得た知識の定着を行う。□
<b>参考図書</b>			
<b>特記事項</b>	講義および提示資料について解剖体の一部を用いるので，写真撮影及び録音録画を許可しない。		

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	眼球運動の診察	講義	1. 眼球運動の診察 2. 眼瞼，眼球，瞳孔，視神経，視路の診察
2	眼球運動疾患	講義	1. 眼球運動傷害の諸型 2. 先天性運動制限と複視
3	眼振と異常眼球振動	講義	1. 眼振の分類，病的眼振 2. 視運動性眼振，異常眼球振動，外眼筋疾患
4	眼瞼疾患と眼窩疾患	講義	1. 眼瞼下垂，眼裂開大，眼瞼の痙攣性疾患と開瞼失行 2. 眼窩腫瘍，眼窩炎症性疾患，眼球陥凹を来す疾患
5	海綿静脈洞疾患と瞳孔疾患	講義	1. 血管性疾患，炎症性疾患，海綿静脈洞腫瘍，海綿静脈洞付近の症候群 2. 視神経障害の検出，瞳孔異常
6	視神経疾患	講義	1. 乳頭浮腫，視神経萎縮，視神経疾患 2. 視神経疾患診察の留意点
7	視路疾患	講義	1. 乳頭浮腫，視神経萎縮，視神経疾患 2. 視神経疾患診察の留意点
8	定期試験	講義	神経眼科学Ⅱ・1～14の総復習および知識の定着

科目名 (英)	眼疾病学Ⅱ Ophthalmology Ⅱ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	金上千佳
		授業形態	講義		有		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	水曜日 1, 2限
講師紹介	保有資格: 視能訓練士、医学写真技師 略歴: 大学病院で1年間眼科写真技師のもと研修をし、その後他大学病院にて臨床現場で眼底写真、蛍光眼底造影撮影、前眼部写真撮影に従事。約4年間の勤務の後フリーに転向。現在約10か所の病院と契約し、蛍光眼底造影をはじめ眼底写真撮影、前眼部撮影、光干渉断層計を担当。豊富な実務経験を有し、現場で視能訓練士の技術指導も行っている。また複数の専門学校で視能訓練士科の学生に対して眼疾病及び眼科写真術の講義を担当						
目的	疾病の原因を理解し、特徴を掴み、眼底写真や所見からどの疾病なのかわかるようになる。						
科目概要	2年次に行えなかった疾患について、画像を取り入れながらわかりやすく解説する。今まで学んだ眼底の基礎をいま一度思い出し、理解を深めること。ただし皆様の理解度により内容を変更することもあることをご了承ください。						
到達目標	基礎知識が最重要である。様々な疾患について解剖をしっかりと考えながらなぜそうなるのかを理解できるようになること。それにより必要な検査及びその結果がどうなるのかを身に着ける。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他( )						
教科書	現代の眼科学、眼科診療ガイド、レジュメ			事前事後 学習と その内容	眼球及び眼底の解剖をしっかりと頭に入れること。数多くの画像を見て特徴を掴むこと。		
参考図書							
特記事項	小テスト(20点満点) 定期試験(80点満点)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	腫瘍疾患	講義	眼底に出現する良性/悪性腫瘍疾患や血管腫の特徴をつかむ。
2	視神経乳頭疾患	講義	眼底に所見のある視神経乳頭疾患の特長を掴み、必要な検査及びその結果を理解する。
3	周産期異常疾患	講義	未熟児網膜症など周産期に起こる眼底疾患の特長を理解する。
4	網膜疾患	講義	2年次に学ばなかった網膜疾患に対して理解する
5	黄斑部疾患	講義	2年次に学ばなかった黄斑部疾患について理解する。
6	ぶどう膜炎	講義	3大ぶどう膜炎以外のぶどう膜疾患について学ぶ
7	先天異常疾患	講義	脈絡膜欠損など先天性の眼底疾患の特長、原因を理解する。
8	定期試験		

科目名 (英)	眼疾病学Ⅲ OphthalmologyⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	金上千佳
		授業形態	講義		有		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	水曜日 1限
講師紹介	保有資格:視能訓練士、医学写真技師 略歴:大学病院で1年間眼科写真技師のもと研修をし、その後他大学病院にて臨床現場で眼底写真、蛍光眼底造影撮影、前眼部写真撮影に従事。約4年間の勤務の後フリー に転向。現在約10か所の病院と契約し、蛍光眼底造影をはじめ眼底写真撮影、前眼部撮影、光干渉断層計を担当。豊富な実務経験を有し、現場で視能訓練士の技術指導も行っている。また複数の専門学校で視能訓練士科の学生に対して眼疾病及び眼科写真術の講義を担当						
目的	国家試験に出題される疾病の基本知識をしっかりと身に付け、画像を見て何の疾患かすぐわかるようになる。						
科目概要	眼疾病学Ⅰ・Ⅱの内容を総合的に考え、幅広い視点での理解を深める						
到達目標	近年の国家試験では臨床現場に即した問題が多々出題されるようになってきている。疾病の特徴を掴むことで考え込むことなく解くことができる。画像を見てどの疾病なのか、どのような検査が必要か、その結果どうなるのかを導き出せるようになること。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他( )						
教科書	現代の眼科学 眼科診療ガイド レジュメ			事前事後 学習と その内容	学習した疾病の特徴を各自でさらに発展させて様々な疾患を自分で調べ知識を深める		
参考図書							
特記事項	小テスト(40点満点) 定期試験(60点満点)						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	国家試験過去問	講義	過去に出題された眼疾病(前眼部疾患を中心に)をそれぞれ紐解いていく。
2	国家試験過去問	講義	過去に出題された眼疾病(前眼部疾患を中心に)をそれぞれ紐解いていく。
3	国家試験過去問	講義	過去に出題された眼疾病(前眼部疾患を中心に)をそれぞれ紐解いていく。
4	国家試験過去問	講義	過去に出題された眼疾病(前眼部疾患を中心に)をそれぞれ紐解いていく。
5	国家試験過去問	講義	過去に出題された眼疾病(前眼部疾患を中心に)をそれぞれ紐解いていく。
6	国家試験過去問	講義	過去に出題された眼疾病(前眼部疾患を中心に)をそれぞれ紐解いていく。
7	国家試験過去問	講義	過去に出題された眼疾病(前眼部疾患を中心に)をそれぞれ紐解いていく。
8	定期試験		

科目名 (英)	視能障害学 Orthoptic Disorders	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	藤戸 茜
		授業形態	講義		有		
学科・コース	視能訓練士学科 I 部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	火曜日/1,2限
講師紹介	保有資格: 視能訓練士 大学を卒業後、専門学校にて視能訓練士の資格を取得。 総合病院、眼科個人クリニックにて豊富な実務経験を有し、2024年より専門学校にて専任教員を務める。						
目的	障害部位ごとの各種疾患の特徴を学び、病名・症状・検査の関連付けを行う。						
科目概要	前眼部・眼内・網膜・循環						
到達目標	視器の解剖生理学を基本として、眼疾病学や神経眼科学で習った内容と実技実習などの検査知識が関連づいて考えられるようになる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験    □口頭試験    □実技試験    □その他(    )						
教科書	視能学・訓練学		事前事後 学習と その内容	視器の解剖生理学・眼疾病学・神経眼科学の内容を見返して授業に臨むこと。			
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	眼球解剖: 前眼部	講義	眼瞼・涙器・結膜の構造や働きを理解する。
2	前眼部疾患	講義	前眼部疾患について理解する。
3	眼球解剖: 内容物	講義	房水・水晶体・硝子体の構造や働きを理解する。
4	内容物疾患	講義	内容物疾患について理解する。
5	眼球解剖: 眼球外膜	講義	角膜・強膜の構造や働きを理解する。
6	眼球外膜疾患	講義	眼球外膜疾患について理解する。
7	全身疾患と眼疾病	講義	全身疾患から派生する眼疾患を理解する。
8	中間テスト	講義	1～8回目の内容
9	眼球解剖: 中膜	講義	ぶどう膜の構造や働きを理解する。
10	中膜疾患	講義	虹彩・毛様体・脈絡膜の疾患を理解する。
11	眼球解剖: 内膜	講義	網膜の構造や働きを理解する。
12	内膜疾患①	講義	網膜疾患について理解する。
13	内膜疾患②	講義	糖尿病網膜症・網膜色素変性症について理解する。
14	瞳孔異常	講義	瞳孔(虹彩)の解剖学的正常を理解し異常を鑑別する。
15	定期試験	講義	1～14回目の内容

科目名 (英)	視能矯正学実習Ⅳ OrthopticsⅣ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	藤戸 茜
		授業形態	実習		有	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	曜日/時間	月曜日・3.4限/木曜日・3.4限
		単位	1				
講師紹介	▶【藤戸 茜】視能訓練士 大学を卒業後、専門学校にて視能訓練士国家資格を取得。総合病院、眼科クリニックにて豊富な実務経験を有する。 ▶【芝田 理恵】視能訓練士 大学にて視能訓練士国家資格を取得。総合病院、眼科クリニックにて豊富な実務経験を有する。						
目的	必要に応じた検査の選択ができる。 知識に基づいた検査と記載ができる。						
科目概要	これまでの実習で学んだことを総合的に考え、症例に対して一連の流れで検査を行える知識と技術を身につける						
到達目標	臨地実習にむけ、必要に応じた検査を理解し、スムーズな検査ができるようにする。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他( )						
教科書	検査ガイド・視能学・エキスパート検査学			事前事後 学習と その内容	授業内容に即したレポートを作成し手技を定着させる。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	オリエンテーション レフラクトメータ、視力検査	実習	スケジュールを把握し、円滑に授業を受けられるように準備する。 次回の授業に備え、自分の屈折値を理解する。
3・4	コンタクトレンズについて (クーパージョンによる講義)	実習	乱視用ソフトコンタクトレンズと乱視の見え方体験 遠近両用ソフトコンタクトレンズと度数合わせ
5・6	コンタクトレンズについて (オフテクスによる講義)	実習	コンタクトレンズの各種ケアについて ケア指導のロールプレイング
7・8	症例検討①	実習	各検査の目的・検査方法・記載方法が理解できているか確認する 臨地実習に向けてレポートを書けるようになる。
9・10	症例検討②	実習	各検査の目的・検査方法・記載方法が理解できているか確認する 臨地実習に向けてレポートを書けるようになる。
11・12	外部実技試験にむけて復習	実習	これまでやってきたことを復習・練習し外部実技試験に備える
13・14	外部実技試験	実習	
15	外部実技試験	実習	

科目名 (英)	臨地実習Ⅱ Clinical Practice II	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	正信 りさ
		授業形態	実習		有		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	時間数	315	授業回数		開講区分	前期
		単位	7		曜日/時間	月～金	

**講師紹介** 眼科での勤務経験を経て視能訓練士資格取得、総合病院やクリニックにて豊富な実務経験を有する。塾講師の経験を活かし、2020年より医歯薬で講師となる。

**目的** 患者様へ対応することで視能訓練士として必要なスキルが何かを理解し、これまで学んだ知識と技術をより確かなものとする

**科目概要** 臨地実習を行い、実際の患者様への対応や検査など能動的な学びを行う。

**到達目標** 患者への対応の方法、臨床現場での検査の方法を自分自身に落とし込み、視能訓練士としての自覚や技術を身に着ける。視能訓練士としての準備を行う。

**評価方法** 定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。  
筆記試験 口頭試験 実技試験 その他( )

<b>教科書</b>	視能学	<b>事前事後 学習と その内容</b>	実習前教育で臨地実習の準備を行いと実習後教育で振り返りを行う。
<b>参考図書</b>			
<b>特記事項</b>	公欠は学校の出席日数には関係するが、臨地実習時間には加味されないので注意する事		

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実習前教育	講義	臨地実習の注意事項を説明。お礼状や書類の提出方法、事項紹介書などの記載を行う。マナーや気を付けなくてはいけない事項について説明する。
2	臨地実習	実習	各実習施設にて臨地実習を行う。
3			
4			
5			
6			
7			
8			

科目名 (英)	臨地実習Ⅲ Clinical PracticeⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	正信 りさ
		授業形態	実習		有		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	時間数	270	授業回数		開講区分	前期
		単位	6		曜日/時間	月～金	

**講師紹介** 眼科での勤務経験を経て視能訓練士資格取得、総合病院やクリニックにて豊富な実務経験を有する。塾講師の経験を活かし、2020年より医歯薬で講師となる。

**目的** 患者様へ対応することで視能訓練士として必要なスキルが何かを理解し、これまで学んだ知識と技術をより確かなものとする

**科目概要** 臨地実習を行い、実際の患者様への対応や検査など能動的な学びを行う。

**到達目標** 患者への対応の方法、臨床現場での検査の方法を自分自身に落とし込み、視能訓練士としての自覚や技術を身に着ける。視能訓練士としての準備を行う。

**評価方法** 定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。  
筆記試験    口頭試験    実技試験    その他( )

<b>教科書</b>	視能学	<b>事前事後 学習と その内容</b>	実習前教育で臨地実習の準備を行いと実習後教育で振り返りを行う。
<b>参考図書</b>			
<b>特記事項</b>	公欠は学校の出席日数には関係するが、臨地実習時間には加味されないので注意する事		

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	後期臨地実習	実習	各施設にて臨地実習を行う。
2	臨地実習報告会	講義	前後期全ての実習を総括し、各施設における共通点・相違点を理解する
3			
4			
5			
6			
7			
8			

科目名 (英)	視能訓練士総合講座 Completer Course	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	正信 りさ
		授業形態	講義		有		
学科・コース	視能訓練士学科 I 部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	日曜日
講師紹介	眼科での勤務経験を経て視能訓練士資格取得、総合病院やクリニックにて豊富な実務経験を有する。塾講師の経験を活かし、2020年より医歯薬で講師となる。						
目的	1年生から2年生まで学んだ専門知識と臨床実習で学んだ臨床の知識を繋げ、広い視野で医療人として総合的に判断が行えるようになる						
科目概要	学内で学んだ様々な知識や技術を利用し、ひとつの症例に関して総合的な選択、判断が行える方法を身につける。定期試験を「卒業判定試験」と称する						
到達目標	3年間の総まとめです。今まで学んだ知識をひとつひとつ繋げて、総合的に視能訓練士の知識生かせるようにする。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他( )						
教科書	視能学	事前事後 学習と その内容	模擬試験実施後に解答解説の作成など振り返りを行う。				
参考図書	眼科診療ガイド・眼科検査ガイド						
特記事項	授業内容により資料配布の場合があります。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	第一回滋慶学園模試	講義	模擬試験の実施
2	第一回滋慶学園模試	講義	模擬試験の実施
3	第一回滋慶学園模試	講義	模擬試験の実施と振り返り
4	全国統一模試	講義	模擬試験の実施
5	全国統一模試	講義	模擬試験の実施
6	全国統一模試	講義	模擬試験の実施と振り返り
7	第二回滋慶学園模試	講義	模擬試験の実施
8	第二回滋慶学園模試	講義	模擬試験の実施
9	第二回滋慶学園模試	講義	模擬試験の実施と振り返り
10	第三回滋慶学園模試	講義	模擬試験の実施
11	第三回滋慶学園模試	講義	模擬試験の実施
12	第三回滋慶学園模試	講義	模擬試験の実施と振り返り
13	卒業判定試験	講義	卒業判定試験の実施
14	卒業判定試験	講義	卒業判定試験の実施
15	卒業判定試験	講義	卒業判定試験の実施